

第5回 最上川流域治水協議会

議事概要

日時：令和4年3月4日（金） 13時30分 ～ 14時30分

場所：山形河川国道事務所 2階大会議室（WEB会議）

新庄河川事務所 2階大会議室（WEB会議）

酒田河川国道事務所 2階大会議室（WEB会議）

最上川流域治水協議会

出席者：山形市長（代理：河川整備課長）、米沢市長（代理：市民環境部防災危機管理課長）、鶴岡市長（代理：防災安全課長）、酒田市長（代理：危機管理監）、新庄市長（代理：環境課地域防災室長）、寒河江市長（代理：防災危機管理課長）、上山市長（代理：庶務課危機管理室長）、村山市長、長井市（代理：総務課補佐兼危機管理室長）、天童市長（代理：危機管理室長）、東根市長（代理：総務部危機管理室危機管理係長）、尾花沢市長、南陽市長（代理：総合防災課長）、山辺町長、中山町長（総務広報課危機管理グループ主任）、河北町長、西川町長（代理：総務課危機管理係長）、朝日町長（代理：総務課危機管理係長）、大江町長（代理：総務課危機管理主査兼係長）、大石田町長、金山町長（代理：町民税務課課長補佐）、真室川町長、大蔵村長、鮭川村長（代理：住民税務課危機管理主幹）、戸沢村長、高畠町長（代理：総務課危機管理室長）、川西町長（代理：安全安心課危機管理主幹）、小国町長（代理：町民税務課町民生活担当主査）、白鷹町長（代理：総務課主事）、飯豊町長（代理：総務課防災管財室主査）、庄内町長（代理：環境防災課危機管理係主事）、遊佐町長（代理：総務課危機管理係長）、農林水産省東北農政局西奥羽土地改良調査管理事務所長、林野庁東北森林管理局山形森林管理署長、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター東北北海道整備局長（代理：山形水源林整備事務所長）、気象庁山形地方气象台長（代理：次長）、山形県防災くらし安心部防災危機管理課長（代理：防災危機管理課防災主査）、山形県農林水産部農村整備課長、山形県農林水産部森林ノミクス推進課長（代理：森林保全主幹）、山形県県土整備部都市計画課長（代理：都市計画課課長補佐）、山形県県土整備部下水道課長、山形県県土整備部河川課長、山形県県土整備部砂防・災害対策課長、山形県県土整備部建築住宅課長、山形県村山総合支庁建設部長、山形県最上総合支庁建設部長、山形県置賜総合支庁建設部

長、山形県庄内総合支庁建設部長、山形県企業局電気事業課長（代理：課長補佐）、最上川中流土地改良区理事長（代理：管理課主任）、上山市土地改良区理事長（代理：管理係長）、東北電力株式会社山形発電技術センター所長、東北電力株式会社庄内発電技術センター所長、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所長、国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所長、国土交通省東北地方整備局新庄河川事務所長、国土交通省東北地方整備局最上川ダム統合管理事務所長（代理：技術副所長）

報道機関：山形新聞社、読売新聞、(株)建設新聞社、(株)東北建設工業新聞社、朝日新聞社、(株)建設新報社、(株)山形テレビ

議事概要：

<流域治水プロジェクト公表内容について、流域治水プロジェクト更新(案)について>

【事務局】

- ◆ 流域治水プロジェクト公表内容について、現時点取りまとめ状況の情報共有。

<農地・農業水利施設を活用した流域の防災・減災の推進>

【構成員】

- 取組内容について情報共有。

<山形県の新規取組の紹介>

【構成員】

- 山形県の新規予定事業（河川流下能力向上・持続化対策事業、やまがた田んぼダム推進事業費）について紹介。

<東北地方の流域治水取組事例について>

【事務局】

- ◆ 東北地方の各水系における流域治水取組事例の紹介。

【構成員】

- 令和2年の洪水前にも浸水被害を受けていたトマトハウスについて、令和2年度の強い農業担い手づくり総合支援事業の被害農業支援型を活用し、浸水区域外へ移転した。また、令和2年7月洪水を教訓として令和3年12月に村主催で最上川近隣の地域住民を集めた最上川緊急治水プロジェクト事業調整会議を開催し、事業の説明や意見交換を実施した。
- 今年度は、水害対策・豪雪対策に繋がる住宅リフォームについて、山形県と連携し、持家住宅促進事業費補助制度を新たに創設した。現在の補助制度は、床上床下

浸水リスクに備えた高床化対応による支援を対象とし、初年度としては、2件の活用状況である。来年度、更なる拡充に向けて検討を進めている。

- 最上川関連における河道掘削、分水路関係及び堤防整備について、確実に進むようお願いしたい。
- 豪雪地という地域性から、克雪対策の多機能化として高床式住宅建築に対して助成を行っている他、住宅敷地内に対する融雪設備に対しても助成を行っている。また、水害ハザードマップに合わせた自主防災組織が集落毎に設置されており、適宜防災出前講座を開設し、災害に備えた対応を進めている。令和3年度は、災害対応図上訓練を2回実施し、訓練によって判明した課題、問題点を共有している。
- 水防拠点の拡張増設により拠点整備が完了した。また、懸念していた須川支流の小鶴沢川について、10か年による堤防整備を行っていくこと大変感謝している。
- 緊急治水プロジェクトも着々と進んでおり、間もなく地元への内容紹介、説明等を進める段階となること大変期待している。当町は、舟運で栄え、最上川からたくさんの恩恵を受けている反面、何度も被害の経験から、培ってきた自主防災意識により、人的被害がなかったと考えている。コロナ禍を意識した避難所のあり方や、避難の仕方について現在検討を進めている。
- 各地域防災組織においては、危険溪流や地すべり等の説明を含めた訓練、研修を常日頃から実施している状況であり、地域によっては、ドローン映像により、実際のハザード地点を確認する等、やり方を工夫しているところもある。現在、町管理河川の堆積土砂浚渫や支障木撤去を進めており、去年は3箇所、今年も3箇所ほど実施する予定。来年度事業で、防災放送の無線化を行い、全戸に戸別受信機を配布する予定。
- 現在進めている大きな事業について、様々な意味でハードが完成してもそれで全てが完了ではないと思っている。一番大事なのは、地域住民が自主防災を含めて何かあったら逃げるという意識を持って判断することと考える。

<今後の進め方について>

【事務局】

- ◆ 今年度の取組状況を情報共有。
- ◆ 今回示した最上川水系流域治水プロジェクトの更新について、年度末の公表予定。（全国109水系と足並み揃えての公表となる。）
- ◆ 次年度以降もプロジェクトの更なる充実に向けて、引き続き協議会等開催していく。